

## 主を離れる預言者

ヨナ書 1 章

ヨナは主の前を離れてタルシシへのがれようと、立つてヨツパに下つて行つた。ところがちやうど、タルシシへ行く船があつたので、……主の前を離れて、人々と共にタルシシへ行くこうと船に乗つた。(3)

主はアツシリアの都ニネベの町に行つて神の言葉を語るようにと預言者ヨナに命じられました。異邦人であり、イスラエルの敵である人々のもとに行けと言われるのです。

ところがヨナは、それを聞くとニネベとは全く反対方向にあるタルシシに向けて出発します。聖書はその行為を「ヨナは主の前を離れて」と記します。主の御心と反対の道を進むということ、主の御前を離れていくことを意味しました。人は主の声が届かないところに逃げ込むことにより、神に背いている自分の存在を隠そうとします。ヨナが主の前を離れて反対方向へ向かつたことを「立つてヨツパに下つて行つた」とあります。それは罪へと下つていく行為でした。ヨナは船底にまで下り、ついには海の底にまで下ります。主の前を離れるとき、神の言葉を語る預言者でさえも、坂を転がり落ちるようになります。主がその転落をとどめてくれます。そしてこれが、罪を持つたわたしたち人間の弱さです。主がその転落をとどめてくださらなければ、わたしたちは罪へと下る道を引き返すことなどできないのです。

ヨナの物語はわたしたち一人ひとりの物語でもあります。それは同時に、罪に下る者たちをどこまでも追いかけて行かれる主の憐れみの物語でもあります。主のまなざしは、海底へと下つていったヨナにも届いていたのです。